

令和5年度平塚工科高等学校 第1回学校運営協議会 議事録



日付: 令和5年6月9日金曜日

時刻: 15時

司会: 教頭

出席者

資料5 参照

校長挨拶

出席者自己紹介

会長選出

石田裕昭氏が推薦され、出席者全員の承認を得て選出。

議案1（以下議案についてはレジメ参照）

資料1 参照

副校長より説明があった。質問、意見無し。

議案2

資料2 参照

各グループ総括より報告があった。

(質問・意見)

- ・中学生が専門高校を選択するのは難しいのでは？
- ・定員割れしている中で、生徒の資質、生徒対応に変化はあるか？

(回答)

- ・中学段階で社会人をイメージするのは無理。キャリアモデルを提示する。
- ・先生方の肌感覚で変化を感じている。緩やかに基礎学力が低下していると思われる。PC など興味のある部分には入り込むこともある。一方で学習に熱心な生徒はいる。

(質問・意見)

- ・女性はざっくばらんで大胆な発想をするのでデジタル社会に向いており、専門職大学院でも女性に向いているという話が出た。工業高校での女性の割合を高めると良い。それには焦点を絞ってやっていく必要がある。女性が 2 割くらいいれば工業高校の雰囲気も変わってくる。

議案 3

資料 3 参照

各グループ総括より報告があった。

(質問・意見)

- ・部活の問題では、高校より中学の方でパワハラが多い。顧問の資質チェックが必要。クラブ活動をどのように運営していくのかは課題。先生方の負担も大きい。顧問制度を考える会がある。スポーツがよいのはわかっているので、なんとか定着させてほしい。
- ・ジュニアマイスターは進学就職に大きな意味はあるのか。成績の良い子が取得しているのか。

(回答)

- ・履歴書に取得資格がたくさん並ぶので、そういう点では意味がある。
取得者には成績の良い子が多いが、興味のある分野を深化させる子もいるので、成績と比例しない子も中にはいる。
各検定の内容は将来的な資格取得につながる。

(質問・意見)

- ・SDG s の視点が必要。就職活動で必ず聞かれる。社会部や生徒会でやればよい。色々取り組んでいると思うが、発信していくことが大切。

(回答)

- ・地球環境科学やドリカムプランに取り組んでいる。

(質問・意見)

- ・目標設定が文学的表現すぎて評価ができない。評価の時には結果に数値が出てくるのに、数値目標の設定がない。数値目標を立て具体化すべきである。

議案 4

資料 4 参照

意見交換

- ・第三者評価と学校運営協議会をコラボさせていく。オンデマンドで配信。昨年度試行し、結果が良かったので、全県に拡大する方向。
- ・全体の教育制度を三年ほど前から変えている。インパクトはどのくらいあったか、その後の就職活動に貢献できているかを検証する。
- ・高校で色々やっているが、発信が下手という指摘を受けている。その点を改善していきたい。
- ・ロボット大会が盛んだが、その優勝者が殆ど東大に入学する。東大に引っ張られているのか。

以前本校卒業生の市会議員がロボット大会を実施していたが、なくなってしまった。ロボットをやってはどうか。

(ロボット大会はコロナ禍でなくなった。)

- ・企業の実施するガイダンスが生徒に響いているのか、改善すべきところはないのか、結果のフィードバックが欲しい。
- ・インターンシップを実施した企業に入社しているのか。自社でもインターンシップを受け入れているが、入社してもらえない。

(インターンシップ企業に入社した例はある。)

- ・防災関連で職員を派遣することができる。起震車を新規購入したので機会があれば活用してほしい。

次回の会議

令和 5 年 11 月 4 日日曜日 場所 本校